

科学者ら800人参加

STSフォーラム開幕

環境・医療など討議

科学技術の進歩が地球環境や教育、医療などに及ぼす影響について世界の科学者や経済人、政策担当者ら約八百人が集まって話し合う「科学技術と人類の未来に関する国

際会議（STSフォーラム）が五日、京都国際会館で開幕した。「人類の未来のための科学技術」をテーマにした全体会議で、野田聖子・科学技術政策担当相は「一般国民と科学者の間には（科学技術について）大きな認識ギャップがある。科学技術が環境や高齢化などの問題解決に役立するため科学者と消費者をつなぐ政策努力が求められている」と述べた。スペインのクリスティナ・ガルメンディア科学イノベーション相はインターネットの情報へのアクセスに不平等がある

「デジタル・デバイド」の問題を取り上げ、「科学技術は天国の扉も開けるが、地獄の扉も開く」と指摘した。フロンによるオゾン層破壊の発見でノーベル賞を受賞したマリオ・モリーナ米カリフォルニア大教授は地球温暖化を引き起こす二酸化炭素（CO₂）排出の増加が止まらない状況に触れ「地球の気候は包容力を使い果たしつつある」と警鐘を鳴らし、「科学技術がCO₂排出を抑えることで天国への扉を押し開く力にならなければ」とした。会議は七日まで。